

平成25年度

事業報告書

4 事業

(1) 発掘調査

平成 25 年度発掘調査受託事業収入の当初予算額は、843,700,000 円であったが、調査の進捗状況等により、最終的に契約金額 866,690,000 円（契約件数 13 件）となった。

区 分	当初予定	契約実績	差 異
受託事業費	843,700 千円	866,690 千円	22,990 千円
契約件数	15 件	13 件	2 件
発掘調査（北部）	4 件	2 件	2 件
発掘調査（中部）	1 件	2 件	△1 件
発掘調査（南部）	7 件	6 件	1 件
遺物整理	3 件	3 件	0 件

なお、調査を実施したもののうち、特に顕著な調査成果が得られているものは、下表のとおりである。現地説明会 5 回 439 名参加

番号	遺 跡 名	所 在 地	主 要 遺 構 等	時 代
1	松井横穴群ほか	京田辺市松井 ほか	松井横穴群：横穴 22 基と 8 基の 横穴墓道を検出。 向山遺跡：弥生時代後期の竪穴 建物 1 基と墓壇 2 基を検出。 下水主・水主神社東遺跡：島畑 を検出。その下層で古墳時代前 期の大溝、飛鳥時代の柱穴群な どを検出。	弥生～古墳時 代、中世
2	下水主遺跡ほか	城陽市寺田	13 世紀前半まで遡る島畑。 弥生時代後期の溝を検出。	弥生・中世
3	大川遺跡	舞鶴市大川	古墳時代後期の竪穴建物、土坑。 平安時代後期の掘立柱建物、井 戸、鍛冶炉、土坑を検出。	古墳時代・中 世
4	石田谷遺跡ほか	与謝野町石田	弥生時代後期の竪穴建物。奈良 ・平安時代の柱穴と溝を検出。	弥生～平安時 代
5	出雲遺跡	亀岡市千歳町	古墳時代の竪穴建物。平安時代 前期の建物跡、平安時代後期の 溝等を検出。	古墳時代・古 代

調査報告書については各 300 部印刷し、合冊した報告集を以下のとおり刊行した。

- 『京都府遺跡調査報告集 第 157 冊』 3 月刊行
- 『京都府遺跡調査報告集 第 158 冊』 3 月刊行
- 『京都府遺跡調査報告集 第 159 冊』 3 月刊行
- 『京都府遺跡調査報告集 第 160 冊』 3 月刊行

(2) 普及啓発

(ア) 埋蔵文化財セミナー

埋蔵文化財セミナーは、次のとおり実施した。

回数	開催日	実施内容	会場
124	平成 25 年 5 月 25 日 (土)	『今、明かされる古代寺院美濃山廃寺の姿』 ・「美濃山廃寺の発掘調査から古代寺院を解明」 当調査研究センター 主任調査員 筒井崇史 ・「美濃山瓦窯の成立と展開」 当調査研究センター 主任調査員 引原茂治 ・「美濃山廃寺の歴史的 position 付け-地域社会と美濃山廃寺-」 八幡市教育委員会 主 幹 小森俊寛	八幡市文化センター 小ホール (参加者 123 名)
125	平成 25 年 8 月 24 日 (土)	『関白・夢のあと ～秀吉の京～』 ・「聚楽第跡の調査」 当調査研究センター 係 長 岩松 保 ・「聚楽第にみる秀吉の城造りと町造り」 同志社大学文化情報学部 教 授 鋤柄俊夫	向日市中央公民館 第 1 会議室 (参加者 121 名)
126	平成 26 年 3 月 8 日 (土)	『速報！京都発掘～恭仁宮・長岡京・平安京外縁～』 ・「恭仁宮の構造を探る」 京都府教育庁指導部文化財保護課 技 師 中居和志 ・「長岡京内の漆工房の調査」 (公財) 長岡京市埋蔵文化財センター 主 査 木村泰彦 ・「平安京北部でみつけた居館」 当調査研究センター 主任調査員 高野陽子	長岡京市産業文化 会館 (参加者 107 名)

(イ) 小さな展覧会（京都府内発掘調査成果速報）

平成 24 年度の調査成果を公開する「第 28 回小さな展覧会」を、8 月 17 日(土)から 9 月 1 日(日)まで、向日市文化資料館 2 階研修室及びラウンジで開催した。

当調査研究センター及び府内市町で実施された調査成果のうち、話題となった 26 遺跡を取り上げて展示した。また、小企画展として「関白・夢のあと ～秀吉の京～」と題して、豊臣秀吉とその時代に関連する遺跡を取り上げ、展示を行った。(参加者 1,590 名)

(ウ) 機関誌

機関情報誌については、以下のとおり刊行した。

『京都府埋蔵文化財情報 第 121 号』 8 月刊行 1,700 部

『京都府埋蔵文化財情報 第 122 号』 12 月刊行 1,700 部

『京都府埋蔵文化財情報 第 123 号』 3 月刊行 1,700 部

(エ) 共同研究

今年度は、以下の共同研究を実施した。(○は代表者)

- ① 丹波地域における古墳時代鉄器文化の特質について
○ 中川和哉、小池 寛、竹原一彦
- ② 八幡市美濃山出土の古代銅製品に関する研究
○ 関広尚世、引原茂治、村田和弘
- ③ 古代にける「繊維製品」の研究
○ 松尾史子、伊賀高弘

(オ) 考古学講座

「関西考古学の日」関連事業として、「夏の考古学体験」として小学生を対象に勾玉づくり・銭貨づくりを体験するとともに、京都の歴史を紹介する講座をセンター研修室で 2 回開講した。参加者は延べ 211 名であった。

	開催日	講師	テーマ	受講者
1	8 月 18 日 (日) 8 月 24 日 (土) 8 月 25 日 (日)	小池 寛・ 松尾史子	夏の考古学体験講座 「勾玉をつくろう」	96 名

2	8月31日(土) 9月1日(日)	小池 寛・ 松尾史子	夏の考古学体験講座 「昔のお金をつくってみよう」	69名
3	10月19日(土)	中川和哉	秋の歴史体験講座 「考古学でみる淀川流域の治水」 木津川河床遺跡でみつかった護岸施設とデ レイケの功績を紹介する講座	14名
4	11月24日(土)	岩松 保	秋の歴史体験講座 「黄泉の国への葬送儀礼—古事記と考 古学—」 与謝野町由里古墳に埋葬された複数体の被 葬者の状況や横穴の被葬者の埋葬方法を通 じて葬送儀礼を紹介する講座	32名

5 職員研修

(1) 専門研修

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会や同協議会近畿ブロックが開催する研修会、関係各機関が実施する埋蔵文化財研究会等の研修に参加した。

また、当該年度に報告書を刊行する予定の遺跡を対象に、関係の理事及び関係機関の協力を得て、遺跡検討会を実施し職員の研修の一環とした。

(2) 一般研修（人権研修）

当調査研究センター人権研修推進委員会が中心となり、職場研修を実施し、又、臨時職員を対象とした「明るく働きやすい職場づくり」研修を実施した。この他、京都府開催の教育庁職員行政・人権問題研修や公益財団法人世界人権問題研究センター開催の人権大学講座等に全職員が積極的に参加した。